



読書指導体験記コンクール入賞

頼富 雅博さん(43)
南町一丁目

「生きる強さ」を伝えたい

第十四回「読書指導体験記コンクール」で全国百三十四編の中から最終選考五編に選ばれ、二月五日、都内で表彰された。このコンクールは高校教諭が対象。受賞した「韓国の扉を開けよう」と題するレポートは、共愛学園高の文芸部で行っている自由講座での実践記録をまとめたものだ。

「生徒とともに学んだ成果が認められ、うれしいですね。わたしは部活の顧問ですが、いろいろ教えられることも多く生徒たちがわたしにとっての先生でもあり、みんなでもらった賞なのです」



担当は国語だが、授業の一つであるハングル講座の補助教員も務めることが

ら、文芸部の三年生からもっと学びたいと請われ始めたという。

「言語を学ぶには、その背後の文化や国民性なども知らなくてははいけません。そこで『ユンボギの日記』という、朝鮮動乱後に韓国でベストセラーとなった本を基礎文献にしました。生徒が自分でテーマを選んで発表するゼミナール方式。授業ではできない、立体的な学習で、生徒自らが多くのことをつかみ取ってくれたと思っています」

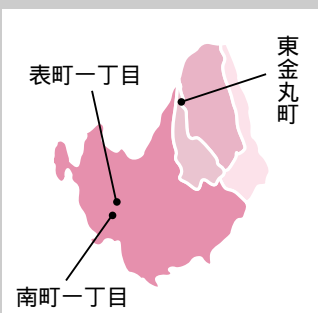
大学時代には、韓国のキリスト教について研究し、韓国からの留学生との交流も多かった。

「日本の物質文明で育った生徒たちに、韓国人の生きる強さ、バイタリティーをこれからも伝え、日韓友好につながる教育を続けていきたい」

物静かな口調の中にも、教育者の熱い情熱を感じる。

ふれあい広場

情報をお寄せください。市役所広報広聴課 890-6642へ。



地域みんなのもちつき大会

本庁管内

表町一丁目の自治会館で、二月六日にもちつきとかるたの大会が行われました。これは地域の生涯学習として、昭和六十二年にスタート。その後、参加者の発案で、かるた大会も行うようになりました。

当日は子どもからお年寄りまで多くの人が参加。大福、けんちん、からみななど六種類のおも



ちを堪能しました。食後は小学生たちで上毛かるたの熱戦も。同町の羽鳥敏夫自治会長は、「子どもが集まる機会が減っているので、長く続けたいですね」と話していました。

まちなニュース

世代間の交流で楽しい一日

大胡地区



一月十八日、東金丸町の滝窪小金丸分校で、お正月お楽しみ会が行われました。地域のお年寄りとの交流する学校行事です。

児童が合唱やリコーダー演奏で歓迎した後、全員でスマイルボウリング。球の投げ方を教え合う様子や、おばあちゃん頑張れ」との歓声はとても楽しそう。また、児童が育てたもち米をつき、汁粉などにして出来たてを食べました。

参加者は、地域から愛されている分校です。素直な子どもが多いことが自慢ですね」と話していました。